

【花木類(花や実を觀賞する樹木)】



①②サザンカとカンツバキ

サザンカとカンツバキは区別がつきにくく、混同されていることも多い。サザンカは原種は日本に自生する一重の白花で、それを基に様々な園芸品種が生まれたが、カンツバキはサザンカとツバキの交雑から生まれた他、諸説ある。一般的に関西地方では写真左のような紅色の花弁に雄蕊がよく目立ち、背が立ち上がって生け垣などによく使われるものを「①サザンカ」と呼んでいるが、カンツバキの‘立寒椿’や‘勘次郎’という品種ともいわれる。カンツバキは一般に横に広がり高木の根締めなどに使われることが多く、花弁が多く②‘獅子頭’と呼ばれることも多い(写真右)。



③ヤツデ

天狗のハウチワのような大きな葉が特徴。花後の実を鳥が食べ、よく増える。

④コーストバンクシア

オーストラリア固有種の樹木。耐寒性もあり、乾燥に強い。

⑤ピラカンサ

トキワサンザシ、タチバナモドキなどを総称してピラカンサという。赤、橙、黄などの実が美しい。



⑥ヒイラギモチ

クリスマス飾りによく使われる。中国原産。



【草花類】



⑦サネカズラ

粘着質の樹液を整髪料に使用した所から、ビナンカズラとも呼ばれる。

⑧斑入りマサキ

黄色の斑入りのマサキでよく生垣に使われる。赤い実がはじける。

⑨オタフクナンテン

ナンテンの園芸品種で、丈は低くグランドカバーに使われる。葉色も通年赤い。

⑩ノジギク

晩秋から初冬に花を楽しませてくれる。牧野富太郎博士が命名。兵庫県の姫路市内の大群生地を見て日本一と言われたこともあり、兵庫県の県花になっている。瀬戸内海沿岸の海に近いエリアに自生するが、同じキク属の植物と交雑しやすく変異が多く見られる。



⑪イソギク

千葉～静岡の太平洋側海岸に自生。日本固有種。黄色の筒状花のみ。

※ツワブキ

東北・北陸南部以南の海岸付近に自生。当校では多くの場所で見られる。

⑫レモンマリーゴールド

植物体全体に強烈な香りがある。

⑬モクビヤッコウ

東アジアの海岸付近に自生。シルバーリーフが美しい。



⑭ガイラルディア
‘グレープセンセーション’

初夏から咲き開花期が長い。花が丸くてかわいらしい。

⑮ヒメツルソバ

ヒマラヤ原産。繁殖力が強く半野生化するのに要注意。

⑯サルビア・エレガンス(パイナップルセージ)

葉をもむとパイナップルの香りがする。右写真は葉が黄色の‘ゴールデンデンデリシャス’。

◆ 冬のガーデンの見どころ シードヘッド

シードヘッドとは、花の終わった後につく実や種子、萼などの花がらのことで、通常の管理なら花後採種する目的が無ければ切り取ってしまいますが、近年ではユニークな形のシードヘッドなども観賞の対象にしています。当校でも一部の植物については残していますので、冬の間お楽しみください。



⑰エキナセア・プルプレア



⑱ヒロハマウンテンミント



⑲オオベンケイソウ
‘オータムジョイ’



⑳ルリマツリモドキ



㉑カシワバアジサイ



㉒スイフヨウ



㉓サキガケアヤメ



㉔モミジアオイ



㉕ペロニカストルム



㉖ルドベキア
‘ゴールドストルム’



㉗ルドベキア‘タカオ’



㉘ルドベキア‘リトルヘンリー’



㉙コボズオトギリ



⑳フジバカマ



㉑トウテイラン



㉒シラン



淡路景観園芸学校 アクセス



お車で
あわじ花さじきから 5分
淡路 IC から 10分